



日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和7年 10月 1日

第 7 号

さいたま市立日進中学校

TEL 048-663-1251

FAX 048-663-0834

言葉の力

校長 長岡有実子

体育祭が終わった。残暑の中、体育の時間や朝練習でクラス一丸となって、取り組む姿は素晴らしかった。暑さ対策として、PTAから各クラスにサーキュレーターを購入していただいた。急なお願いにも快く対応して頂き、ありがとうございました。

全校演技の「日進体操」は十分に練習の成果を発揮し、大きな掛け声とともに演技でき、多くの皆様にお褒めの言葉を頂いた。このメンバーで行える最初で最後の体育祭、心に残る演技を間近で見ることができたことに深く感謝している。

学年種目のムカデ競争も1年生、2年生、3年生、全てのクラスにドラマがあった。全力で声をかけ合い、歩を進める姿、残念ながら見学となってしまった生徒の精一杯の応援、旗を持ち、声を枯らして伴走する担任の先生、見守る学年主任の先生、すべてが一枚の絵のように私の心に映し出される。競争である以上、順位は着いたが、どのクラスもそれぞれの一番があった。体育祭で得られた達成感とチームワーク、悔しかった思いを、次の合唱につなげてほしい。

私たちは様々な集団に属しており、そこには仲間が存在する。仲間との関係はいい時もあれば、時として関係が悪くなってしまう時もある。そんな時に大切なのは「言葉」である。言葉は昔、「言霊（ことだま）」と言っていたという説もあり、それは話し手の「心」や「霊」が込められていると考えられていたからである。良い言葉を発すれば、良いことにつながり、悪い言葉を発すれば悪い方向にいく、それは今も変わらない。学校や、職場や、家庭、その他のあらゆる場面での「言葉」は相手に大きな影響を与え、その一言に勇気づけられ、元気をもらい、くじけそうになる自分を支えることができる。何げなく使う言葉がどのような意味を持ち、それが相手にどのように伝わるのかを考えて、自ら発する言葉を大切に使用していきたいものである。

「言葉の力」は無限大。だからこそ人を傷つける言葉ではなく、人の心を温かくする言葉や、時には相手の人生にも影響を与えるくらいの前向きな言葉を伝えたい。

「ひとつのことば」

北原白秋

ひとつのことばで	けんかして	ひとつのことばで	なかなかおり
ひとつのことばで	頭が下がり	ひとつのことばで	心が痛む
ひとつのことばで	楽しく笑い	ひとつのことばで	泣かされる
ひとつのことばで	それぞれに	ひとつの心を持っている	
きれいなことばは	きれいな心	やさしいことばは	やさしい心
ひとつのことばを	大切に	ひとつのことばを	美しく

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校